

2012 夏の経済教室 名古屋記録 8月8日(水) ウィンクあいち

名古屋は4年目。会場は昨年と同様に、名駅前のウィンクあいちである。立秋を過ぎたが、名古屋は暑い日。そのなかで、60名を超える先生方が熱心に受講された。

第一時間目「中学校教科書で教える経済の仕組み」野間敏克先生



講義する野間先生

内容は広島での講義と同一なので、広島の記録を参照されたい。

金融の箇所では、市場型間接金融の話をする

間接金融の利点、直接金融の利点の両者を利用できないか 市場型間接金融

例1：投資信託のケース

例2：サブプライム問題、リーマンショックなど

サブプライム問題を解説する図

財政は時間の関係で省略

今最大事なのは政府の失敗を正すことではないかと考えている

まとめ

質問：自由な貸し借りはいいことのねたは？

A：教室で貸してあげる人は、貸してくれないのは何人というものがよいのでは。ただし、生徒の実情をよく見て実施するとよいであろう。

第二時間目 中学教科書で教える経済の仕組み「法と経済」大倉泰裕先生
これは今回はじめての内容である。



講義をする大倉先生

自己紹介

学校の実情の紹介

はじめに

「と」が重要 経済教育と法教育 別々にやってそれで良いのでしょうか？

「や」だったらもっと難しくなる and か？or か？

「・」も難しい 政治・経済 技術・家庭科

あるものを経済から見たらどうなるか、法から見たらどうなるかを社会科として考える必要性

1 そもそも論から

〇〇教育がいくつあるか 社会科だけでも 30 以上、全部で 100 を超える教育がある

経済教育、法教育もその一つ

社会科としてどれをどれだけ扱うかを判断し、選ぶ必要がある

そのためにも社会科とは何かを押さえておく必要がある

中教審答申からは 覚えるだけではなく、考えることが大事だよというメッセージが浮かび上がる

さらに、持続可能な社会をつくる 社会参画できる子どもを育てることが大事だよ

そこであらためて社会科ってなぜあるの？という問いが出てくる 未来を託す子どもたちを一人前に育てること

それで振り返るのが教育基本法である

また、社会科の歴史をみてゆく 政治・経済・社会から公民へと変化したなぜ？一つの理由がばらばらに教えることが一般化されてしまっているから

親学問は大事だが、それを一体化して教える、考えることが必要

その場は、総合的学習であり社会科に求められる

社会的事象を経済や法から多面的に見ることが大事

2 法教育と経済教育

法教育の定義—多数ある 代表的なものに、法教育研究会の定義がある
学習指導要領による定義はどうなっているか

経済教育の定義 学習指導要領の定義は資料参照

3 授業の実際

契約を法と経済から考える授業

社会保障を法と経済から考える授業 の二つを提案する

1) 契約をどう扱うか

契約を結ぶとは

経済から契約を見ると 道徳（正しいことをやりなさい）との違いを明確にすること
社会科は原因、理由を考えさせること

例：家を購入する場合

契約を破っても良いということで途中でキャンセルされたら工務店は仕事ができない
経済活動がなりたない 膨大なコストがかかる

経済活動を成り立たせるためには契約を守ることが大事となる

契約はお互いを拘束するが、同時にお互いに利益が上がること

中国でのマンション購入のケース 監視しないと何やられるか分からない

経済の立場からは法があろうがなかろうが契約は守らなければならない

効率という観点で契約を見ることができるところを教えた

ここで登場するのが「信用」、信用のある人間になるにはどうすればよいかを生徒に投げかけている

2) 社会保障をどう扱うか

社会保障を経済から見ると 有効需要政策と関連する

かわいそうだからお金を上げるのではなく、景気を底支えする意味を持つ

社会権、生存権、基本的人権から出てくる

これは政策の問題であるので、契約とは異なる面はある

現実には問題が多いが、まずは良いところから、次に問題を考察する

第三時間 授業提案

(申し訳ありません。写真はありません。)

1 三枝利多先生

広島の記事と同一内容なので、広島の記事を参照されたい。

2 伊藤達也先生 (名古屋市立昭和橋中学校)

120人程度の金融経済教育研究会を組織している

勤務校は、中川区の学校でそれほど勉強志向ではない

教員も生徒も経済は苦手、難しいという感じをもっている

いろいろな教材から、ただでできるものを条件として採用してみた

「街のTシャツ屋さん」が浮かび上がる

最初はおうちの学校では難しいと思っていた

使うのであれば、全部ではなく需要と供給、価格設定で絞ってやった

それでも9時間かかった

学習プリントで手順を読ませながら、実行していった

起業～マーケティングと書いたら、初めての言葉でざわついた

会社を作り、役員を決める、だれにどんな製品を売るかを考えさせた

学区の地図を示して出典計画を立てさせた

原価と経費は同じにして、製品の価格を決めさせた

実物のTシャツを持ってこさせて、どんなところが売れるポイントかを考えさせた

デザインを考えさせ、より売れそうなシャツをえらばせた

デザインしたTシャツを切り抜かせた

販売促進用のデザインを考えさせた

生産者の目線でまず作らせる

次に、消費者の目線で購入させる (1グループ3枚まで)

振り返りでシートを見て判断できるようにした

結果を計算させる (ちゃんと利潤があがったか)

生徒に理屈はあまり教えなかったが、生徒の発見が沢山でできた

講義型の授業とは違いずいぶん違う反応で驚いている

他に、今年は特別支援学級にて通年で経済をテーマにしてやっている

この子らに本当に必要なものは何かを考えて担任の先生と協力してやっている

山根先生のコメント

概念の習得、活用、探究というが、そのなかの探究に関しては

話をしたり、教科書を読ませるといったスタイルでやったら絶対に経済はきれいになる

活動とシミュレーション、ゲームでやると子どもが概念を実感的に分かるようになる

中身が実感的に分からないと嫌いになる

学習のコンテキスト (文脈)、ストーリーが必要

例：朝ドラはストーリーがあるから面白い

一回が完全に切れてしまっている授業が多いのではないか

実感的だと生徒に身近になる、切実なものになる

生徒が意思決定できる、判断の場面があるとのめりこむ、そのなかで概念を獲得しようとする

講義で丁寧に話せば話すほどわからなくなる

私の書いた教科書ではパン屋さんの経営をやってみようでストーリー作っている
自画自賛だが良い教科書であるといえるので、参考にして欲しい

水野先生のコメント

楽しく学ぶ授業の提案を受けた

教育大学でも経済が難しいという感想が多い

これまでの教える側の人間の問題である

経済学を教えるにも理論と現実の関係を考えさせたいと思っている

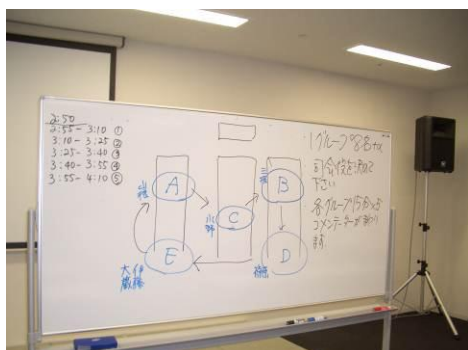
日常生活のなかから教えていただければ有難い

ただし、よくできすぎている教材が多いと思う

できる範囲でやってゆけばよいのではと思う

四時間目 情報交換会

全体を5グループに分けて(6から7人単位) 15分単位で5人の担当者が回る(伊藤、三枝、山根、水野、篠原、大倉)



このような指示でグループを作り、話し合いを行った。

2日目 8月9日(木) 高校教員対象

長崎原爆投下の日。旧ソ連の対日参戦の日でもある。

名古屋はうす曇。それでも朝から暑い日ではある。そのなかで、参加の先生方は熱心に講義に参加していた。

第一時間目 高校教科書で教える金融・証券の仕組み 榊原宏司先生



講義をする榊原先生と広義を聞く参加の先生方

内容は、広島、大阪と同様なので、そちらを参照されたい。

質疑

1 山本(三重大学院)三重では石原産業の株主代表訴訟まで起こっているが、東証としてはどのように企業の暴走を抑えようとしているのか？

A: 個別企業に関しては答えられないが、法に従って粛々と対応してゆくしかないし現実にはそれをやっている

2 司会者 野村のケースはコーポレートガバナンスの欠陥からおきたのか？

A: コーポレートガバナンスというより、社内の情報管理、統制の問題であると考えられる。

第二時間目 歴史を経済で読み解く：戦後金融史



内容は、広島と同様なので、そちらを参照されたい。

質疑

日本史：兌換券が教科書に掲載されているが、本当に兌換にいった人間がいるのか、地方銀行などには金をもっていたのか？

A: 地方銀行は金を持たない。もし兌換を請求されたら、日銀を通して大蔵省に請求してそこから金がくるというプロセスである。現実には、市場での金の流通価格との関連が大きいのではないかと。それほど兌換がされたということはないのではないかと。

第三時間目 入試問題を通して考える経済 野間敏克先生



内容は、広島、大阪と同じ。そちらを参照されたい。
質疑はなし。

第四時間目 効率と公平、幸福・正義・公正と民主主義 中川雅之先生



内容は、広島、大阪と同じ。そちらを参照されたい。

質問：民主主義を生かすには話し合いが重要で、ハーバーマスの言うような討議民主主義で
問題が突破できるのではないかと。また、先生は直接民主主義をどう評価しますか？

A：直接民主主義が可能かどうかは疑問。ただし、集合的意思決定の場で討議をおこなって
ゆくのは十分ありうる。

以上：記録文責 新井